

戸田建設 グリーンボンド

フレームワークの概要とサステナビリティクスによるセカンドオピニオン

2017年10月



Trisha Taneja (トロント)
Associate, Advisory Services
trisha.taneja@sustainalytics.com
(+1) 647 317 3695

Wakako Mizuta (東京)
Associate, Advisory Services
wakako.mizuta@sustainalytics.com
(+81) 3 4589 4886

James Hawrylak (東京)
Director, Institutional Relations
james.hawrylak@sustainalytics.com
(+81) 3 4589 4886

目次

1	はじめに	3
2	発行体概要	3
3	フレームワークの概要	4
3.1	調達資金の用途	4
3.2	プロジェクトの評価および選定プロセス	4
3.3	調達資金の管理	5
3.4	レポートイング	6
3.5	コンプライアンス・レビュー	6
4	サステナビリティクスのオピニオン	7
	セクション 1: グリーンボンドフレームワークへのサステナビリティクスのオピニオン	7
	セクション 2: 発行体のサステナビリティ実績	7
	セクション 3: 調達資金の使用によるインパクト	8
	結論	9
	参考資料	10
	参考資料 1: 設置予定の風力発電機数とタイプ別内訳及び発電所出力	10
	参考資料 2: 五島市沖洋上風力発電事業の実施想定エリア（崎山漁港沖）	10
	参考資料 3: グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム 外部機関レビューフォーム	11
	サステナビリティクスについて	18

1はじめに

戸田建設株式会社（以下、戸田建設）は、グリーンボンドを発行してその調達資金を浮体式洋上風力発電施設の建設に充当するためのグリーンボンドフレームワークを策定しました。戸田建設は、サステナビリティクスとの間で、グリーンボンドフレームワークとその環境面の認証にかかるセカンドオピニオンを提供する委託契約を締結しています。サステナビリティクスはこの契約の一環として、戸田建設の事業プロセスと調達資金の計画的な利用にかかる持続可能性への影響を理解し、また戸田建設のグリーンボンドフレームワークの調達資金管理およびレポーティングを理解するために、戸田建設の各チームのメンバーとの対話を実施しています。またサステナビリティクスは、関連する公表文書及び社内文書の審査を行っています。

この意見書は、フレームワークの概要（戸田建設グリーンボンドフレームワーク）とサステナビリティクスの意見（フレームワークに関する意見）の 2 つのセクションで構成されています。

2発行体概要

戸田建設は日本国内外において主に総合建設業を営んでいます。同社は住宅・官公庁・商業建築（集合住宅、病院、学校、行政施設など）、さらにインフラ建設（空港施設、駅施設、トンネル、上下水道施設など）と多彩な建設事業に携わってきました。同社はこれらの建設事業に加えて電力エネルギー施設（メガソーラー発電所、風力発電所、水力発電所など）にも重点を置いています。戸田建設は 1881 年に創業され、日本国東京都に本社を置いています。

同社の「環境方針」は以下の 3 つの活動に取り組むことを定めています。

1. 汚染の予防、資源の有効利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、生物多様性の維持・保全等に係る環境負荷低減活動を推進する。
2. 環境関連事業及び技術開発に取り組むと共に、建設物の設計・施工及び施設の管理等すべてにおいて環境保全活動を展開する。
3. 環境に関する法令、協定等を順守すると共に、情報の開示に努め、社会とのコミュニケーションを図る。

戸田建設ではこれらの目標、特に 1. と 2. を推進するために風力発電施設の資金調達のためグリーンボンドの発行を予定しています。

3. フレームワークの概要

グリーンボンド発行のために、発行体である戸田建設はグリーンボンド原則（GBP）の4つの柱である調達資金の用途、プロジェクトの評価および選定プロセス、調達資金の管理、レポートニングに準じ以下のフレームワークを策定しました。

3.1 調達資金の用途

グリーンボンドで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たす新規資金拠出プロジェクトに充当される予定です。

3.1.1 適格クライテリア

1. **再生可能エネルギー**：五島市沖洋上風力発電事業（長崎県五島市崎山漁港沖）における浮体式洋上風力発電施設の建設に関連する支出。関連する支出とは風力発電機、浮体、送電網への接続を指します。

参考資料 1 には戸田建設が本ボンドによる調達資金の用途において予定している風力発電機のリストを記載しています。

参考資料 2 には五島市沖洋上風力発電事業の実施想定エリアを示しています。

3.2 プロジェクトの評価および選定プロセス

プロジェクト選定における適格・除外クライテリアの適用

グリーンボンドによる調達資金充当の対象として選定したプロジェクトが適格クライテリアに適合しているか、また下記の環境リスク低減プロセスを順守しているかは戸田建設の洋上風力プロジェクト推進部が確認します。プロジェクト選定の最終承認は取締役会が行います。

環境面にかかる目標

戸田建設では3つの環境方針を事業活動に取り入れるため、8つの環境活動に重点を置いています。1) 環境マネジメントシステム、2) 建設および一般廃棄物、3) 有害物質リスクの管理、4) 温室効果ガス排出量、5) 生物多様性、6) グリーン調達、7) 環境技術に関する研究、開発、プロジェクト、8) 環境的配慮。

さらに戸田建設にはCO₂排出量を減らし環境目標を実現するための4つのメカニズムがあります。1) カーボン排出量を最小化した建設方式の採用によって建設プロセスからのカーボン排出量を減らす、2) 自社オフィスからのカーボン排出量を減らす、3) 戸田建設所有施設からのカーボン排出量を減らす、4) 従業員がCO₂削減に取り組む。

環境リスク、社会的リスク低減のためのプロセス

戸田建設は環境リスク低減のため以下の2つのプロセスを実施しました。

1. 本ボンドの調達資金を使って建設される浮体式洋上風力発電施設の風力発電機及び浮体は、2010年度から2015年度まで行われた環境省の浮体式洋上風力発電実証事業¹で実証研究が行われたものと同じタイプ（風力発電機はダウンウィンド型、浮体はハイブリッドスパー方式）です。環境省のこのプロジェクトでは、風力発電施設の技術的条件とともに五島市杵島沖の風力発電施設建設による環境への影響も調査され、環境への負の影響の可能性は小さいとの結論が出されました。戸田建設は環境省のこのプロジェクトに共同事業実施者の代表者等として参加しました。
2. 風力発電施設は日本の環境影響評価法²に定められている環境影響評価の手続きに従います。出力10,000kw以上の風力発電機の建設には、重大な環境影響を 방지し持続可能な社会を推進するために環境影響評価を行うことが法律で義務づけられています。戸田建設は五島市沖洋上風力発電事業について2016年9月より環境影響評価手続きに着手しています³。2017年8月には、プロセスの一環としてその方法書につき経済産業大臣勧告を受けました⁴。戸田建設は、その勧告を踏まえ環境調査や予測・評価を実施し、その結果を示した準備書を作成中です。事業を実施するためには、準備書の手続きの後、評価書及び報告書の手続きを実施することが求められます。

3.3 調達資金の管理

グリーンボンドで調達された資金の充当と管理は戸田建設の財務部が行います。同社財務部にて、適格プロジェクトの予算と実際の支出を四半期単位で追跡管理する内部管理システムを用意します。調達資金の充当が決定されるまでの間は、同社が資金と等しい額を銀行預金に一時的に預入します。グリーンボンドの元本と金利の支払いは同社の運転資金から行われ、支払額が適格プロジェクトの実績に直接的に左右されることはありません。戸田建設では、グリーンボンドで調達された資金の大半は発行から3年以内に支出されると予想しています。

¹ 浮体式洋上風力発電実証事業（環境省）

<http://goto-fowt.go.jp/>

² 環境影響評価法（環境省）

http://www.env.go.jp/policy/assess/1-3outline/img/panph_j.pdf

³ (仮称)五島市沖洋上風力発電事業 戸田建設株式会社（経済産業省）

http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/electric/detail/furyoku_gotoshioki.html

⁴ 戸田建設株式会社「(仮称)五島市沖洋上風力発電事業環境影響評価 方法書」に対する勧告について（経済産業省）

http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/electric/files/furyoku/furyoku-gotoshioki/hohosyo_dajinkenkokoku.pdf

34 レポーティング

資金充当状況レポーティング

戸田建設は、適格クライテリアに適合するプロジェクトに調達資金の全額が充当されるまでの間、プロジェクトについて（追加プロジェクトの説明も含む）、機密性を考慮しつつ毎年レポートを行うことを約束します。プロジェクトへの毎年の充当額とプロジェクトの説明は同社ウェブサイト（<http://www.toda.co.jp>）で毎年公表され、また毎年発行のCSRレポートにも記載します。さらに同社はその財務担当役員（CFO）から毎年、グリーンボンドの調達資金が適格プロジェクトに充当される旨のレターを受領する予定です。充当状況の詳細に関する最初のレポートは、グリーンボンド発行から1年後に行う予定です。

インパクト・レポーティング

戸田建設は充当状況のレポーティングに加え、同ボンドの償還までの間、同じレポートの中で適格プロジェクトに関連する以下の指標を開示する予定です。

- 建設した風力発電機の数と風力発電機の出カキャパシティ
- 実績データが入手可能な際、適格プロジェクトによるカーボンオフセットの量

35 コンプライアンス・レビュー

戸田建設はグリーンボンド発行日から1年を経過する前に、適格プロジェクトが戸田建設のグリーンボンドフレームワークに適合しているかを評価するためのレビュー契約をサステナリティクスと結びます。このレビューは、戸田建設のグリーンボンドによる調達資金がすべて充当されるまで毎年行う予定です。サステナリティクスはレビューについてのレポートを作成し、戸田建設はこれを同社ウェブサイト上で公表します。毎年のレビューによって万一、戸田建設のグリーンボンドフレームワークに適合していない活動への資金充当があったとされた場合、戸田建設は該当する資金を戸田建設のグリーンボンドフレームワークに適合する別の活動へと再充当します。

4. サステナリティクスのオピニオン

セクション 1: グリーンボンドフレームワークへのサステナリティクスのオピニオン

サステナリティクスは、総合的に戸田建設のグリーンボンドフレームワークは大きなインパクトを生み出し、透明性があり、そして「グリーンボンド原則 2017」に合致しているとオピニオンを表明します。サステナリティクスが本評価に際して考慮した要因の一部を以下に述べます。

- 再生可能エネルギーは「グリーンボンド原則 2017」において明確な環境的改善効果をもたらすプロジェクトの事業区分として認められています。
- 戸田建設のプロジェクト選定プロセスと調達資金の管理は市場の標準に沿ったものです。
- 戸田建設のグリーンボンドで資金を調達したプロジェクトから生じる環境リスク、社会的リスクを低減する戸田建設のプロセスは堅実なものであり、マーケット全般のベストプラクティスに合致しています。戸田建設はグリーンボンドによって資金を調達する予定のプロジェクトにかかる環境影響評価を行っているだけでなく、過去に洋上風力発電機の環境リスクについて試験的な評価にも参加しており、この種の発電機について環境への影響は小さいと結論が出ています。
- 戸田建設の定量的影響度指標に関するレポートは市場の標準に合致しています。

セクション 2: 発行体のサステナビリティ実績

本フレームワークによる発行体企業のサステナビリティ戦略への貢献

CSR 方針に組み込まれた環境方針および環境目標が示す通り、戸田建設には環境に対する強いコミットメントがあります。特に目標について、以下の 8 つを柱として環境問題に貢献していく重点活動を示しています。1) 環境マネジメントシステムの推進、2) 建設および一般廃棄物の削減、3) 有害物質リスク管理の徹底、4) 温室効果ガス排出量の抑制、5) 生物多様性の尊重、6) グリーン調達の推進、7) 環境技術に関する研究、開発、プロジェクトの推進と実施、8) 環境的配慮の推進。戸田建設は環境にかかる重点活動 7 の一環として、浮体式洋上風力発電事業をはじめとする発電事業について社内で目標を設定しています。このような目標設定は、戸田建設のグリーンボンドフレームワークが同社の環境目標、環境戦略に合致するものであることを表しています。

サステナリティクスでは戸田建設のグリーンボンドフレームワークは同社の CSR 戦略とも合致し、同社の環境戦略に貢献するものとしてオピニオンを表明します。

建設に伴う環境リスク低減に対する体制整備

サステナリティクスは、洋上風力発電施設の建設が環境リスクになり得ることを認識しています。具体的には建設時の騒音、生物多様性、建設従事者の安全衛生、地元住民との摩擦などです。環境リスク、社会的リスクを低減するための戸田建設のプロセスはフレームワーク文書に記載されています。サステナリティクスは、以下の根拠でこれを強固なプロセスであるとオピニオンを表明します。

- (i) 戸田建設は環境省の浮体式洋上風力発電実証事業において、浮体式洋上風力発電施設の建設が環境に影響を及ぼすかどうか確認する環境影響評価（アセスメント）を実施していました。この結果として、環境への影響は小さいと述べています。
- (ii) 戸田建設は本件グリーンボンドによって資金調達を行うプロジェクトについて、日本の法律に従った環境影響評価手続きを進めています。
- (iii) 戸田建設には安全衛生に関する方針があり、また労働者の安全衛生を確保するための労働安全衛生マネジメントシステムがあります。

戸田建設がすでに環境省の浮体式洋上風力発電実証事業において浮体式洋上風力発電施設の環境影響評価を実施していること、また戸田建設のグリーンボンドによって資金調達を行うプロジェクトについても環境影響評価手続きを進めていることから考えて、サステナリティクスでは戸田建設にはいかなる環境リスクをも低減できる十分な態勢が整っていると見ています。また戸田建設の安全衛生に関するポリシーと労働安全衛生マネジメントシステムの存在から考えて、同社にはいかなる社会的リスクをも低減できる十分な体制が整っています。

セクション 3: 調達資金の使用によるインパクト

COP22（気候変動枠組条約第 22 回締約国会議）における公約の一環として、日本国政府は再生可能エネルギーについて可能な限りの拡大を推進しており、これには風力発電のほか太陽光発電、地熱発電、水力発電、バイオマス発電が含まれます⁵。計画では、日本には陸上風力発電に適した土地が限定されるため中長期的に洋上風力発電の導入が不可欠であるとしています。

これは経済産業省が 2015 年にまとめた「長期エネルギー需給見通し」にも反映されており、この見通しでは安全性、エネルギー安全保障、経済的効率、さらに環境保護の観点から広い視野に立って 2030 年時点の日本のエネルギー構成を定めています⁶。計画では 2030 年時点での発電量において再生エネルギーへの依存度を現在の 2 倍にあたる 22~24 パーセントまで増やすこと

⁵ 地球温暖化対策計画（環境省）

<https://www.env.go.jp/press/files/jp/102816.pdf>

⁶ 長期エネルギー需給見通し（経済産業省）

http://www.meti.go.jp/press/2015/07/20150716004/20150716004_2.pdf

を想定しています（うち風力は 1.7 パーセント）。洋上風力など再生可能エネルギーの拡大目標は、経済産業省が 2016 年にスタートさせた「エネルギー革新戦略」にも取り入れられています⁷。

このような背景から、浮体式洋上風力など再生可能エネルギーへの需要は国家的なレベルで拡大しています。以上のことからサステナリティクスでは、戸田建設のグリーンボンドフレームワークが国の重要な目標に貢献し、日本の現状において明確な環境的改善効果をもたらすものであるとオピニオンを表明します。

「持続可能な開発目標」（SDGs）との一致

「持続可能な開発目標」（SDGs）は 2015 年 9 月に策定され、2030 年までに持続可能な開発を実現する政治的目標となっています。本グリーンボンドは以下の SDG 目標を推進するものです。

調達資金の用途 カテゴリー	SDG	SDG 目標
再生可能エネルギー	7.安価でクリーンなエネルギー	7.2030 年までに世界全体のエネルギー構成において再生可能エネルギーの比率を大幅に高める

結論

戸田建設のグリーンボンドフレームワークには透明性があり、グリーンボンド投資の資金用途と結果を明瞭にしています。再生可能エネルギーは、GBP においても明確な環境利益をもたらす適格なグリーンプロジェクトの事業区分として認められています。日本の持続可能開発という課題を背景として、戸田建設の浮体式洋上風力発電プロジェクトは国家的な重要目標と低カーボン経済への移行に貢献します。さらにサステナリティクスの検証したところでは、戸田建設には内部の環境および社会的リスク評価プロセスによって、日本国内での風力開発に伴う諸問題に対応できる態勢が整っています。サステナリティクスは、戸田建設のグリーンボンドは信頼性が高く強固なものであるとオピニオンを表明します。

⁷ エネルギー革新戦略（経済産業省）
<http://www.meti.go.jp/press/2016/04/20160419002/20160419002-2.pdf>

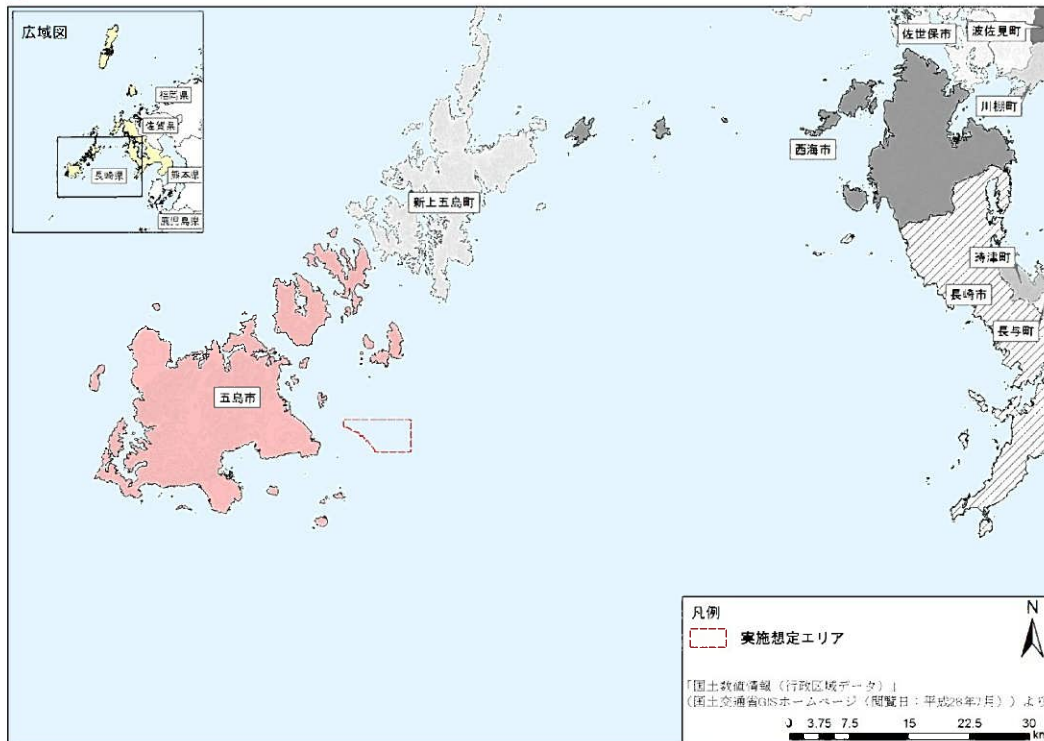
参考資料

参考資料 1: 設置予定の風力発電機数とタイプ別内訳及び発電所出力

戸田建設は浮体式洋上風力発電施設の建設にあたって下記のオプション I、II、IIIのいずれか（場合によってはさらに別のオプション）を想定しています。

オプション	風力発電機の数（基）			発電所出力 (kW)
	（風車 2MW級） 定格出力 2,100kW	（風車 5MW級） 定格出力 5,200kW	合計	
I	10	0	10	21,000
II	8	1	9	22,000
III	5	2	7	20,900

参考資料 2: 五島市沖洋上風力発電事業の実施想定エリア（崎山漁港沖）



参考資料 3: グリーンボンド/グリーンボンド・プログラム 外部機関レビューフォーム

グリーンボンド/グリーンボンド・プログラム 外部機関によるレビューフォーム

セクション 1 基本情報

発行体の名称: 戸田建設

グリーンボンド **ISIN** コードまたはグリーンボンド発行体フレームワークの名称 (該当する場合):

レビュー機関の名称: サステイナリティクス

このフォームの記入完了日: 2017年 10月

レビューの発行日:

セクション 2 レビューの概要

レビューの範囲

レビューでは次の要素を評価し、グリーンボンド・プログラムとの整合性を確認しました。

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価および選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

レビュー機関の役割

- | | |
|---|---------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルティング (セカンドオピニオンを含む) | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input type="checkbox"/> レーティング |
| <input type="checkbox"/> その他 (具体的に記入してください): | |

レビューの概要またはレビュー全文へのリンク (該当する場合)

グリーンボンドフレームワークと上記のセカンドオピニオンを参照してください。

セクション 3 レビューの詳細

1 調達資金の使途

セクションについての総合的コメント（該当する場合）：

戸田建設は調達資金をフレームワーク内に記載の適格クライテリアに従って浮体式洋上風力発電施設の建設に使用します。サステナリティクスは、再生可能エネルギーは「グリーンボンド原則（GBP）2017」において適格事業区分と認められており、明確な環境的改善効果をもたらすとのオピニオンを表明します。

資金の使途のカテゴリー（分類は GBP に基づく）：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> 省エネルギー |
| <input type="checkbox"/> 汚染の予防と管理 | <input type="checkbox"/> 天然資源の持続可能な利用 |
| <input type="checkbox"/> 生物多様性保全（陸上および海洋） | <input type="checkbox"/> クリーンな輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応 |
| <input type="checkbox"/> 環境に配慮した製品、製造技術、製造工程 | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |
| <input type="checkbox"/> 債券発行の時点では確認されていないが、将来的に GBP のカテゴリーに適合するか、またはまだ GBP のカテゴリーになっていないその他の適格分野に適合すると現時点で予想される | |

GBP のカテゴリーにない場合は、環境分類を記入してください（可能な場合）：

2 プロジェクトの評価と選定に関するプロセス

セクションについての総合的コメント（該当する場合）：

グリーンボンドによる調達資金充当の対象として選定したプロジェクトが適格クライテリアに適合しているか、また下記の環境リスク低減プロセスを順守しているかは戸田建設の洋上風力プロジェクト推進部が確認します。プロジェクト選定の最終承認は取締役会が行います。

サステナリティクスは、これがマーケットスタンダードに沿ったものであるとのオピニオンを表明します。

評価と選定

- グリーンボンドによる調達資金に適切なプロジェクトのクライテリアが定義されており、その透明性が担保されている
- プロジェクトの評価と選定に関するクライテリアのサマリーが公表されている
- ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトが **GBP** のカテゴリーの範囲に適合していることが判断される
- その他（具体的に記入してください）：

責任に関する情報

- 評価/選定のクライテリアについては外部機関による助言または検証が必要
- その他（具体的に記入してください）：
- 組織内での評価

3 調達資金の管理

セクションについての総合的コメント（該当する場合）：

グリーンボンドで調達された資金の充当と管理は戸田建設の財務部が行います。同社財務部にて、適格プロジェクトの予算と実際の支出を四半期単位で追跡管理する内部管理システムを用意します。調達資金の適格プロジェクトへの充当が決定されるまでの間は、同社が資金と等しい額を銀行預金に一時的に預入します。グリーンボンドの元本と金利の支払いは同社の運転資金から行われ、支払額が適格プロジェクトの実績に直接的に左右されることはありません。戸田建設では、グリーンボンドで調達された資金の大半は発行から 3 年以内に支出されると予想しています。

サステイナリティクスは、これが市場の標準に沿ったものであるとのオピニオンを表明します。

調達資金の追跡管理：

- 発行体はグリーンボンドで調達された資金を体系的な手法に基づいて区別または追跡管理している
- 未充当の資金の運用に使用する予定の一時的な投資手段の種類が開示されている

- その他（具体的に記入してください）：

その他の情報開示：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 将来の投資にのみ充当 | <input type="checkbox"/> 現在と将来の投資に充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> 支出ポートフォリオに充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |

4 レポーティング

セクションについての総合的コメント（該当する場合）：

資金充当状況レポーティング

戸田建設は、適格クライテリアに適合するプロジェクトに調達資金の全額が充当されるまでの間、プロジェクトについて（追加プロジェクトの説明も含む）、機密性を考慮しつつ毎年レポートを行うことを約束します。プロジェクトへの毎年の充当額とプロジェクトの説明は同社ウェブサイト（<http://www.toda.co.jp>）で毎年公表され、また毎年発行の CSR レポートにも記載します。さらに同社はその財務担当役員から毎年、グリーンボンドの調達資金が適格プロジェクトに充当される旨のレターを受領する予定です。充当状況の詳細に関する最初のレポートは、グリーンボンド発行から 1 年後に行う予定です。

インパクト・レポーティング

戸田建設は充当状況のレポーティングに加え、同ボンドの償還までの間、同じレポートの中で適格プロジェクトに関連する以下の指標を開示する予定です。

- 建設した風力発電機の数と風力発電機の出カキャパシティ
- 実績データが入手可能な際、適格プロジェクトによるカーボンオフセットの量

サステイナリティクスは、レポーティングがマーケットスタンダードに沿ったものであるというオピニオンを表明し、また戸田建設に対してはできる限りカーボンオフセット量などの数値指標についてレポートするよう推奨します。

資金充当状況レポーティング：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクト・ポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個々の債券の情報源にリンクを張っている | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |

報告される情報：

充当額

投資額全体におけるグリーンボンドによる調達額の割合

その他（具体的に記入してください）：

頻度：

毎年

半年毎

その他（具体的に記入してください）：

インパクト・レポートニング：

プロジェクト単位

プロジェクト・ポートフォリオ単位

個々の債券の情報源にリンクを張っている

その他（具体的に記入してください）：

頻度：

毎年

半年毎

その他（具体的に記入してください）：

報告される情報（予想または事後の報告）：

温室効果ガスの排出量／削減量

消費エネルギーの削減量

その他の ESG 指標（具体的に記入してください）：

開示の方法

財務報告書に掲載

サステナビリティ・レポートに掲載

アドホックの報告書に掲載

その他（具体的に記入してください）：ウェブサイト上

レポートニングは審査済み（審査済みの場合は、どの部分が外部審査の対象であることを明示してください）：

該当する場合、参考情報へのリンク先の欄で報告書の名称と発行日を明記してください

参考情報へのリンク先（例えば、レビュー機関の審査手法、実績、発行体の参考文献などへのリンク）

参照可能なその他の外部審査（該当する場合）

提供されているレビューの種類:

- | | |
|---|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> コンサルティング（セカンドオピニオンを含む） | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 / 監査 | <input type="checkbox"/> レーティング（格付け） |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）: | |

レビュー機関:

発行日:

グリーンボンド原則（GBP）が定義するレビュー機関の役割について

- (i) コンサルタント・レビュー：発行体は、環境的な持続可能性、その他グリーンボンド発行におけるさまざまな面（発行体のグリーンボンドフレームワークの策定／レビューなど）について、定評ある専門知識を備えたコンサルタントや専門機関に助言を求めることができます。「セカンドオピニオン」はこのカテゴリーに含まれます。
- (ii) 検証：発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンドフレームワーク、または裏付けとなる資産について、資格要件を満たした当事者（監査人など）に独立した立場からの検証を受けることができます。[次の]認証（certification）と異なり、検証（verification）では発行体が作成した内部基準や要件との整合性に焦点を当てることができます。裏付けとなる資産の環境的に持続可能な特性の評価も「検証」と呼び、外部のクライテリアを適用する場合があります。
- (iii) 認証：発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンドフレームワーク、または調達資金の用途について、外部のグリーン評価基準に照らして認証を受けることができます。クライテリアは評価基準によって定義され、こうしたクライテリアとの整合性を資格要件を満たした第三者機関／認証機関が確認します。
- (iv) レーティング（格付け）：発行体は、発行するグリーンボンド、またはそれに関連するグリーンボンドフレームワークのレーティングを資格要件を満たした第三者機関（専門的調査機関、格付け機関など）から取得することができます。グリーンボンドのレーティングは通常、個別の債券やグリーンボンドフレームワーク／プログラムに適用されるもので、発行体の ESG レーティングとは別です。

免責事項

無断複写・転載を禁じます。このセカンドパーティ・オピニオン（以下『オピニオン』）のいかなる部分も、形式・手段を問わず、サステイナリティクスの書面による事前許可がない限り複写・転載・公開することはできません。

『オピニオン』は、分析対象の債券が持続可能かつ責任あるものだと考えられる理由を述べるために作成されました。したがって本『オピニオン』は情報提供のみを目的とするものであり、サステイナリティクスは『オピニオン』の内容についてのいかなる形の賠償責任も、『オピニオン』やそこに含まれる情報の利用に起因する損害に関する賠償責任も認めることはありません

『オピニオン』はクライアントから提供された情報に基づいて作成されているため、サステイナリティクスは本『オピニオン』に提示された情報の完全性・正確性・最新性を保証しません。

本『オピニオン』に記載されたいかなる内容も、明示黙示を問わず、企業への投資の可否、または投資可能ユニバース／ポートフォリオへの組み入れの可否についての表明や保証とみなすことはできません。さらに本『オピニオン』はいかなる場合も、債券の経済的パフォーマンスや信用力の評価と解釈することはできず、また債券による調達資金の効果的な充当を扱ったものと解釈することもできません。

クライアントは自らの行動の適法性・実行・監視について、認証の取得や確実な実施の全責任を負います。

サステイナリティクスについて

サステイナリティクスは、ESG とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付け・分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の開発と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステイナリティクスは世界各地に 13 のオフィスを有し、環境・社会・ガバナンスに関する情報と調査を投資プロセスに組み込む機関投資家のパートナーです。今日、サステイナリティクスの社員数は 300 名を超え、うち 170 名のアナリスト陣が 40 以上のセクターについて多分野にわたるさまざまな専門知識を持っています。IRRI [International Rice Research Institute, 国際イネ研究所] の調査では投資家たちが、2012 年から 2014 年の 3 年間連続で責任投資（RI）に関する最も優れた独立系調査機関にサステイナリティクスを選びました。また 2015 年には ESG 調査とコーポレート・ガバナンス調査の両方について上位 3 社に選ばれました。サステイナリティクスはまた、[金融・債券に関する情報サービス企業] GlobalCapital 社から最も優れた責任投資（SRI）／グリーンボンド調査会社にも選ばれています。詳しくは www.sustainalytics.com をご参照ください。

サステイナリティクス

info@sustainalytics.com

www.sustainalytics.com

